

平成九年度

## 修士論文・卒業論文題目一覧

### 修士論文（一月十日受領分）

#### 国文学専攻

- 小野塚 力 芥川龍之介『河童』論  
岡田 基 谷崎潤一郎『卍』論  
柏川 修一 談義本の研究  
熊倉 百合子 宮本百合子研究 —『伸子』を中心として—  
後藤 基 三島由紀夫『春の雪』論  
児玉里麻 『今昔物語集』研究 —道成寺説話を中心に—  
小磯 純子 榎本星布研究  
柴田 葉月 仙覚の万葉集研究 —十三番歌を中心に—  
徐 前 漱石と子規の漢詩人としての側面について—比較の視点から—  
高島 めぐみ 『万葉集』と『古今和歌集』に見る色表現  
丁 莉 竹取物語の研究  
難波 宏彰 式子内親王研究  
原 由来恵 歌物語の研究 —素材・成立・変容—  
船水 暢子 『野ざらし紀行』研究  
三浦 高人 夏目漱石『道草』研究

#### 中国学専攻

- 赤木 素子 『北宋三遂平妖伝』創作の意図について  
翁 玲 薈 陶淵明詩の研究 —「隠士」についての一考察—  
倉持 誠 『三七全傳南柯夢』論 —「槐宮記」引用の意味をさぐることを中心に—  
土田 章子 紅葉山文庫旧蔵の官版について  
田 芳 張愛玲文学の研究 —張愛玲と『紅樓夢』の関係について—  
坂野 純子 杜牧研究 —その理想と挫折—  
益子 勝 『江戸の易学』 —新井白蛾の易占—  
松村 久子 館柳湾研究 —その著作と生涯—  
川出 深雪 一休宗純『狂雲集』研究  
月野 政文 石川丈山『覆轡集』について  
牧 聡士 魯迅文学に見る「父子」関係について

### 卒業論文（十二月十日受領分）

#### 磯 水絵教授

- 間 千夏 中世説話における「夢」の概念  
小 椋 愛子 外来説話の諸相 —『宇治拾遺物語』から—  
小田島 しのぶ 元良親王 —『元良親王集』を中心として和歌、説話等から見る人物像—  
笠井 洋佳 宇治拾遺物語第一九〇段に関する考察  
河原塚 紀子 説話における小野篁像 —特に『宇治拾遺物語』

を中心に――

北村 和泉 『和泉式部日記』の研究

久保川 朋子 物忌 ―その語に含まれる内容と当時の物忌観―

倉持 絵里 「説話における鬼の世界」 ―宇治拾遺物語以前の

説話を中心に――

小峰 翼 人間の幸福 ―宇治拾遺物語を中心に――

清 美 幸 異類婚姻譚について

高松 晴美 「笑い」と「笑い話」について ―『宇治拾遺物語』

を中心に――

田近 あけみ 夢について

田中 伸作 文学作品に描かれた源義家について

田巻 聡子 説話における長谷寺信仰 ―今昔物語集観音靈驗

譚を中心に――

徳永 知也 同話・類話からみた『宇治拾遺物語』の成立

中原 正仁 破戒僧と偽悪僧の発生と存在理由―そして説話文

学における役割について――

那須野 紀浩 宇治拾遺物語の孔子説話の研究

馬場 里津子 「護法研究」 ―中世説話文学作品を中心に――

平野 雅之 『法華験記』に見る鎮源像

平野 美千代 瘤取譚の成立について

保坂 陽子 長明の人間観 ―出家をめぐる恩愛像―

布袋田 和貴 中世文学に見られる異形の者

横井 朋子 陰陽がつくる真実 ―星のもたらすもの―

吉野 裕子 『宇治拾遺物語』の成立について

#### 今西幹一教授

浅沼 大祐 有島武郎「宣言一つ」に見る自己解放理想の意義

岩崎 浩世 立原道造『暁と夕の詩』研究

岩淵 敏司 武者小路實篤の世界観 ―『友情』を中心に――

小林 裕和 宮澤賢治「小岩井農場」研究

後藤 陽子 木下利玄『紅玉』論

坂本 晶 村山槐多試論 ―詩歌を中心に――

佐々木 礼一郎 芥川龍之介『地獄変』研究

杉村 建次 高村光太郎研究 ―『智恵子抄』を中心として――

吉澤 圭子 三島由紀夫『岬にての物語』研究

反町 優子 樋口一葉『にぎりえ』研究

鷹 簪 真由美 堀辰雄『風立ちぬ』研究

高橋 かおる 高村光太郎『智恵子抄』の世界

高橋 奈緒子 森鷗外『高瀬舟』研究

田村 芳樹 芥川龍之介『地獄変』考

徳永 隆史 島崎藤村『落梅集』研究

西久保 靖 谷崎潤一郎『少年』研究

日暮 俊彦 遠藤周作論 ―「海と毒薬を中心に」――

堀江 貴子 志賀直哉『城の崎にて』論

矢作 信明 深沢七郎『楢山節考』論

横山 華代 堀辰雄論 ―『曠野』を中心に――

一色 瑞枝 川端康成『千羽鶴』の研究

日向 淳子 中原中也研究

池谷 雅夫 野田秀樹「贗作 桜の森の満開の下」研究 好

きだったら仕方がない)

清水義昭教授

青柳 裕之 御伽草子の成立と伝承 —一寸法師について—  
赤澤 正樹 外来語について

飯野 崇 枕詞の研究 —近況と課題—  
池田 健太郎 志賀直哉作品論

伊東 潤一 句読点における表現上のメカニズム  
伊藤 好弘 日本語の起源について

内山 浩一 万葉仮名から平仮名へ  
佐藤 真実 山形県庄内地方の方言に関する研究

鈴木 しのぶ 野田秀樹におけるドラマツルギー(劇作論)  
鈴木 貴子 宮澤賢治の色彩語について

富田 篤史 日本語考現学  
奈良 陽子 芥川龍之介『地獄変』論

蓮見 良子 格助詞「の」と「が」について  
淵野 建史 『古事記』神名中の性別を示す語に就いて

森下 真弓子 遠州方言考  
関 香織 太宰治論 —女性独白体に関する一考察『女生徒』を中心に—

菅根順之教授

浅野 宏美 落窪物語研究  
今村 かおり 源氏物語における風俗研究

大澤 寿美子 和泉式部日記研究

小倉 香織 清少納言論

河野 博美 紫の上考

菊池 珠美 和泉式部日記研究

小松 仁 「呪術について」

小森 めぐみ 文学に見る子供達

坂本 裕子 蜻蛉日記研究

佐川 昌子 平安朝女性の宗教意識 —『蜻蛉日記』、『更級日記』から—

佐々木 舞 『蜻蛉日記』に見る藤原道綱母の女性像

佐藤 美香 源氏物語における女性像 —作中人物論—

椎名 美和 讃岐典侍日記考察

塩崎 三穂子 落窪物語研究

島崎 裕子 物語・日記文学にみる中古の女性

心光 智樹 大和物語の人物考

鈴木 聖子 源氏物語研究

高梨 美貴 和泉式部の恋について

武井 香織 『源氏物語』より見る「もののけ」

中川 貴世 枕草子にみる清少納言の人生観  
西 茶羽 平安期の女流作家の人物考と、その文学史上的な存在意味について

西村 邦世 源氏物語における恋愛とそれを彩る女性

野呂 祐美子 源氏物語における「もののけ」について

峯松 麗子 源氏物語考察

本 永 美 弥 源氏物語論 ―ものの怪について―

中村 宏教授

今 井 健 児 三島由紀夫論

海 野 ひろみ 遠藤周作作品研究 ―作品に表れた母のイメージ―

「私のもの」を中心として―

大 淵 興一郎 「中原中也」―その世界

小 林 里 美 安部公房研究

近 藤 由紀恵 遠藤周作論

齋 藤 康 子 吉行淳之介の研究

坂 本 一 宏 「海と夕焼」論

澤 口 大 輔 「深い河」について

芝 田 恵 理 遠藤周作論

島 野 朋 子 三島由紀夫論

武 田 朋 子 谷崎潤一郎論

鳥 羽 京 子 福永武彦論

中 村 美 和 子 太宰治研究

成 島 由 恵 太宰治研究

原 伸 一 遠藤周作論

原 朋 子 谷崎潤一郎の研究

坂 東 愛 三島由紀夫『親切な機械』論

広 瀬 由 布 子 谷崎潤一郎論

古 川 さくら 三島由紀夫論

水 島 人 美 「太宰治論」

求 美和子 芥川龍之介研究

本 吉 俊 一 三島由紀夫『豊饒の海』論

矢 野 卓 大江健三「万延」元年のフットボール」論

八 卷 紀 子 谷崎潤一郎作品研究 ―「春琴抄」を中心として―

高 山 英 明 中上健次「枯木灘」論

鳩貝久延教授

相 田 真 希 子 山村暮鳥論 ―詩集『雲』について

青 柳 奈 津 子 「暗夜行路」論

小 田 と も み 「山月記」論

川 村 久 美 子 「寺山修司論 ―童話から見た寺山修司―」

菊 池 祐 巳 子 想像力を養う国語教育 ―『夢十夜』を用いて―

米 谷 太 志 有島武郎論 ―『小さき者へ』について

後 藤 啓 子 「たけくらべ」論

佐 野 比 呂 美 森鷗外『舞姫』考

塩 崎 博 亮 「与謝野源氏」と「谷崎源氏」の比較

島 崎 悦 子 太宰治における「聖書」の位置と意義

嶋 田 徳 麿 葛西善蔵に影響を与える家族の存在

清 水 順 子 太宰治の道化 ―『人間失格』を中心に―

田 川 理 恵 下村千秋 ―農民小説と暴露小説との関わり―

玉 川 み の り 白鳥省吾 ―北原白秋との論争とその後―

塚 原 真 澄 森鷗外『高瀬舟』論

鶴 見 尚 太宰治論 ―愛と罪―

長谷川 保 「春琴抄」論

古川 真知子 梶井基次郎『檸檬』論  
 別府 政澄 遠藤周作論  
 星野 綾 源氏物語と谷崎潤一郎  
 堀内 美紀 太宰治『魚服記』について  
 横山 英利 菊池寛『無名作家の日記』論  
 渡邊 正敏 「村野四郎論」——『亡羊記』を中心に——  
 中澤 友紀 樋口一葉『たけくらべ』論

# 林 武志教授

石原 涼子 泉鏡花研究  
 井出 志織 坂口安吾論  
 大木 直之 「羅生門」論  
 金澤 洋祐 夏目漱石『吾輩は猫である』研究  
 梶沢 淑恵 夏目漱石研究  
 川崎 早苗 夏目漱石研究  
 木本 雅史 金閣寺研究  
 窪田 淳子 太宰治論  
 鞍貫 明子 太宰治研究  
 桑田 裕司 田山花袋『蒲団』における書簡の役割  
 小泉 詩穂美 遠藤周作研究  
 坂本 佳奈子 「芥川龍之介の児童文学」——「白」を中心に——  
 清水 芳 夏目漱石研究  
 立花 正志 太宰治『魚服記』研究  
 宮川 麻美子 芥川龍之介論

圓谷 恵子 芥川龍之介作品論  
 長塩 和子 三島由紀夫研究  
 根本 純子 谷崎潤一郎研究  
 萩野 良子 幸田露伴『五重塔』研究  
 早川 大祐 芥川龍之介作品論  
 眞鍋 卓 樋口一葉論  
 箕輪 裕也 コインロッカーベイビーズ論  
 村上 京子 三島由紀夫研究  
 湯本 陽子 芥川龍之介研究  
 和賀 祐子 夏目漱石論『夢十夜』について  
 大根田 智之 川端康成論——『抒情歌』について——  
 山田 進 梶井基次郎論——『城のある町にて』を中心に——

# 針原孝之教授

青柳 博 磐姫皇后研究  
 青柳 瑞穂 山部赤人の自然観  
 植木 理英 大伴坂上郎女研究  
 上溝 かほり 近江朝と万葉集  
 大道 麻美 万葉集の七夕歌  
 岡林 礼子 大津皇子と大伯皇女  
 小田 恵美子 額田王研究  
 勝亦 晃子 萬葉集における山  
 桐生 貴明 采女考  
 澤田 紫野 竹取翁研究

高橋 智春 中皇命研究  
 田中 真 「歌垣」研究  
 長江 寿恵 但馬皇女研究  
 沼田 なお子 万葉集に見る「家族」  
 長谷川 雪子 有間皇子研究  
 日向 百代 額田王研究  
 福澤 容子 万葉の恋の諸相  
 前島 美菜子 万葉の花 ―花に寄せた想い―  
 間中 美千子 鏡王女と額田王  
 森田 理香 大伴家持をめぐる、笠女郎と坂上大嬢  
 谷田部 弘美 万葉挽歌論 ―哀惜のことば―  
 矢部 絵理子 万葉の花 ―百合―  
 山田 桃子 万葉集季節歌の展開  
 樽井 麻美子 万葉植物 ―草花―

半田公平教授

五十嵐 友美 和泉式部の研究  
 池谷 由紀子 後鳥羽院研究  
 石岡 真由美 常磐三寂の研究  
 石山 美紀 和泉式部日記研究  
 井出 聡 西行研究  
 遠藤 千絵 小野小町研究  
 大木 真美 小野小町研究  
 太田 鍾一 『千五百番歌合』の研究 ―俊成判を中心として―

小黒 奈津子 藤原定家研究  
 加茂 和歌子 西行法師研究  
 草間 基明 『百人一首』研究  
 小柴 陽子 紫式部研究  
 佐々木 俊彦 俊成卿女研究  
 佐藤 奈々 拾遺集研究  
 鈴木 志保 和泉式部研究  
 坪井 ひろみ 式子内親王研究  
 南城 美栄子 西行法師の研究  
 西 ゆかり 西行研究  
 村松 利奈 後鳥羽院の研究  
 安田 恭子 西行について  
 山口 潮久 清少納言研究  
 渡邊 珠美 紫式部の研究  
 杉本 啓介 平仲物語論

松田 存教授

青山 亜希子 謡曲に見る小町像  
 石渡 岳路 謡曲にみる植物の精  
 伊東 真理 判官義経伝 ―謡曲とその素材から―  
 井上 由美子 『源氏物語』と謡曲  
 今村 智之 勝修羅物の能（謡曲）をめぐる  
 小野 朝美 狂女物謡曲の類型  
 小野 恵 記紀と謡曲（能）

小野 理恵子 謡曲老女物考

亀田 真 希 謡曲にみる故事成語

川野 秀 夫 修羅物謡曲考

熊倉 みどり 謡曲「松風」をめぐる

小林 美帆子 謡曲修羅物武人考

清水 理 絵 能と歌舞伎の比較

鈴木 睦 『風姿華伝』と現代演劇

仲戸川 亜希子 『源氏物語』謡曲の女性像

新川 ゆき子 謡曲における『源氏物語』の女性

野口 由香利 『平家物語』と能（謡曲）

本田 倫 子 能と歌舞伎について

三宅 慶 久 海老名南阿弥陀仏と観世——歴史の表舞台へ——

村田 晴 義 謡曲に於ける『平家物語』の人物像

山田 夕 紀 菟名日少女伝説の流れ——謡曲「求塚」をめぐる

て——

### 森野 崇講師

相原 志 保 平安時代における助詞「ガ」と「ハ」の相違

青葉 瑞 穂 現代日本語における擬声語の研究

蝦名 美貴子 カタカナの歴史と現代までの使われ方

大古田 尚 子 句読点の使われ方と今後のゆくえ

岡本 文 子 山形県酒田市の方言研究

小倉 美 帆 千葉県山武郡の方言研究——大網白里町を中心に——

川原 美 香 愛知県稲沢市と名古屋市の方言——年代差・地域

差について——

佐伯 恵 鹿児島弁の現状とその行方

佐藤 一 宏 ルビの功罪

鈴木 敦 子 応答詞の研究

中塚 美 季 はやりことばと「る」ことば——流行語の変遷と

新語の寿命——

中野 恵 里 四つ仮名の研究

花木 美 絵 『狭衣物語』における謙讓の補助動詞

早瀬 秋 子 「ら」抜き言葉の研究

原 陽 子 書き言葉・話し言葉の観点からみた現代敬語

平野 紫 澄 現代における日本人の名前について

布施 龍 一 江戸時代における遊女言葉についての考察

本谷 直 美 軍記物語における擬声語の考察——平家物語を中

心に——

増田 伸 一 現代語における形容詞の質的分類——五感を表す

形容詞の位置づけ——

三代 哲 学校教育における形容動詞の扱いについて

森 康 博 派生名詞に関する一考察——接尾語「さ・み」を

中心に——

森田 安 紀 敬称の接尾辞「さん」と「くん」に関する研究

森山 智 子 「現代語におけるガとハの用法」

吉沢 香 織 現代語における接続詞の使われ方

渡邊 孝 之 「です」と「っす」に関する考察

竹内 拓 也 小説のジャンル別文体について

矢羽勝幸教授

大森雅美 俳句からみる江戸文化

大山恵美子 女流俳人の作品からみる女性観の考察

小川貴代 其角と嵐雪 ― 芭蕉との関わり ―

恩田路子 近世俳人たちが見つけた時代 ― 一茶を中心として ―

川上量広 二木弘龍論

木崎泉 日本宗教から考察する日本人の言動とアイデンティティ

河野洋美 一茶の生い立ちと作品

高橋奈穂 一茶論

田口響子 地方俳諧伊勢派 ― 中興期までの過渡期に於けるその役割 ―

竹内利映 一茶と浄土真宗

富倉祐子 越谷吾山について

中田秀樹 宝井其角 ― 芭蕉没前後の作品と俳風 ―

中村成子 其角の俳風、洒落風への移行

中山明子 其角と江戸風俗

永澤聡 小林一茶考

橋本穂 「芭蕉と蕪村の季語研究」

福田千恵子 内藤文章論

古川恵津子 嵐雪・其角研究

丸山敦子 宮澤賢治から見た小林一茶

翠川喜徳 俳諧論の時間旅行

宮坂伸子 俳人宮本虎杖について

村田久美子 宝井其角論

吉田佳子 江戸期における庶民文化と俳諧 ― 一茶の時代の文化と生活 ―

渡邊真理子 一茶と千葉県のパ人達

山崎正伸教授

池田美香 源氏物語の女君 ― 植物の名で呼ばれた女性たちをめぐって ―

香取倫江 歌人中務の研究

下条恵美子 平安朝文学における僧侶の恋愛 ― 浄蔵の恋愛譚をめぐって ―

高橋五月 和歌に詠まれる老いについて ― 三代集を中心に ―

辻純子 歌枕三山の形成と発展 ― 三笠山・竜田山・三輪山 ―

畠山尚宏 大嘗会和歌の表現形成

矢野岳州 初期百首歌考 ― 曾禰好忠・源順・恵慶・源重之百首をめぐって ―

指吸真美 平安時代における婚姻形態の考察について

山本育子 忠見集の屏風歌に関する一考察

山崎正之教授

荒井千明 上代人の他界観に見る日本人の「死」というもの

磯康代 上代における動物をめぐって ― 犬を中心に ―



今井 しおり 比較神話考  
 植 草 徹 ヒルコ神話をめぐって  
 上 野 貴美子 記紀にみる陰陽五行思想  
 浦 野 靖 広 弓と矢 ―その呪具的性質―  
 大 松 和 子 出雲論  
 奥 澤 みゆき 近親婚の考察  
 笠 原 秀 子 『昔話におけるタブーの存在とその意義』―人はなぜ昔話に魅かれるのか―  
 川 崎 麻 代 昔話における動物の役割 ―犬をめぐって―  
 菊 池 亮 日本人の死生観  
 貞 廣 智 子 ヤマトタケル論  
 静 井 さおり 神の形容と信仰心  
 島 名 祥 友 柿本人麻呂  
 関 谷 哲 古代日本における植物の民俗学  
 宗 圓 一 帆 上代における異界観  
 戸 塚 陽 子 『黄泉の国』・『死』の概念の形成について  
 内 木 美紀子 スサノヲ考  
 長 澤 文 乃 天照大御神について  
 松 尾 彩 『眉』―美容における民俗史  
 矢 部 真 美 賀茂伝承をめぐって  
 山 田 果 林 上代作品における男性像  
 渡 邊 敦 子 上代における母と子  
 金 子 淳 稲荷信仰と狐のイメージ  
 金 子 満 裕 記紀神話にみる神の存在意義 ―イザナミをめぐ

野 杵 靖 子 る必然の考察―  
 神話伝承の担うもの ―児童文学的視点から―  
 家 井 眞教授  
 赤 羽 貴 裕 西王母信仰の発生に関する一考察  
 荒 井 知 子 中国における亀の一考察  
 及 川 佳知江 河伯伝説に就いての一考察  
 瀧 田 恵 子 中国文学に見える『桃』について  
 北 條 理 治 古代中国における婚礼  
 大地武雄教授  
 阿 部 直 人 陶淵明の人間愛について  
 石 渡 愛 陶淵明の飲酒詩  
 伊 藤 貴 子 王維の自然詩について  
 稲 橋 香 苗 陶淵明の死生観について  
 小 倉 綾 陶淵明の飲酒詩について  
 小 村 斉 明 陶淵明の処世観  
 香 川 良 太 陶淵明の死生観について明らかにする  
 吉 良 誠 陶淵明の処世観  
 黒 澤 正 弘 陶淵明の自然観  
 都 築 達 仁 陶淵明の処世観  
 中 西 希 予 『長恨歌』研究  
 中 本 さわこ 陶淵明の人間愛  
 中 山 知 美 陶淵明の死生観

西野 由起子 陶淵明の人間愛  
 長谷川 陽子 王維の自然詠  
 花嶋 智加子 陶淵明の処世観について  
 藤井 貴裕 陶淵明の処世観  
 真壁 るみ子 「長恨歌」の製作意図について  
 吉川 英里 陶淵明の人間愛  
 吉住 典子 陶淵明の自然観について  
 金子 憲二 「桃花源記并詩」について

#### 川久保廣衛教授

岩田 康 孝の本質と社会波及効果  
 岡本 尚子 『論語』と日本  
 小野原 愛 喪礼——日本人と儒教——  
 小原 慎吾 『論語』の後世（中国）に与えた影響について  
 齋藤 弘貴 孔子と弟子との会話から推察する孔子の人間像  
 佐藤 恵美 論語・学而・篇にみる孔子像  
 杉浦 英明 孔門十哲について  
 千石 剛 論語の教育的性質について  
 田中 マリア 古代中国において孔子が果たした教育的役割  
 中野 嗣 現代に生きる『論語』の思想哲学  
 松本 茂雄 『論語』における「孝」について  
 三上 順也 論語における「仁」について  
 本木 裕子 論語における「仁」について  
 柳田 達也 下村湖人の『論語物語』にみられる論語について

矢吹 淳 論語学而篇について  
 山浦 基秀 宮中顧問官正三位勲一等三島中洲先生論  
 山本 和富 史記からみた孔子門下の人間像  
 山本 泰毅 人類の教師・儒学の師  
 吉田 珠美 論語における子貢の人間性について

#### 久保田美年子教授

伊地知 華月 『祝福』に見る旧風俗習慣  
 須永 淑子 秋瑾研究  
 高橋 希 張天翼研究  
 高橋 英樹 彭德懷研究  
 田島 博厚 『延安文芸講話』の文学的意義について  
 坂東 道照 老舍と北京  
 松村 謙 小平——改革・開放——  
 石井 優子 歌劇「白毛女」  
 小瀬 弘子 中華人民共和国における少数民族の政策と変遷  
 島田 美々 謝氷心  
 千葉 礼衣子 現代中国における教育問題  
 梁瀬 翠 中国における現代演劇——孟京輝ら現代に生きる  
 演出家の作品から——

#### 斉藤喜代子教授

大野 恭彦 『三言二拍』研究——近世の庶民像について  
 金子 薫 「兒女英雄伝」研究

鹿山 洋一 『水滸伝』研究 —好漢の風貌について—  
 河村 知子 公案小説の特色について  
 木下 祥男 『三言一拍』研究 —庶民の願望について—  
 高橋 大志 『儒林外史』研究 —呉敬梓の実像について—  
 竹内 奈都樹 『三国志演義』研究 —孫権の哲学について—  
 濱田 朱貴 『今古奇観』における「情」について  
 林 友和 『三言一拍』研究 —近世を生きた妓女達—  
 広瀬 純 『三言一拍』の男性たち  
 藤田 和子 『駱駝祥子』の研究 —祥子の庶民像について—

#### 高山節也教授

腰原 剛 中国書籍にみる水墨画の源流、その技巧  
 古川 由布 孝経  
 三石 裕之 鎌倉時代における金沢文庫の役割

#### 田村和親教授

浅井 英明 『荀子』の養身長寿の方法  
 浅野 壮明 『荀子』の「乱」の認識と組織体論  
 磯前 貴子 孟子の王道論と民本論の構造  
 今田 裕志 『荀子』の絶対的価値基準設定と言語表現の確立  
 岩崎 桂 韓非子の人間弁別の方法  
 大野 暁弘 『韓非子』の「公私」の概念  
 大野 真澄 春秋後期の侵略の論理  
 大野 有理 春秋時代の女性の位置

岡野 厚子 『荀子』における「礼」と「仁」の相関  
 尾崎 充 『韓非子』の君臣統合の認識と臣下統御  
 小野田 拓郎 列伝の構成と司馬遷の意識  
 笠原 誠司 『韓非子』の『老子』解釈  
 加瀬 葉子 民に対する韓非の視点と統治論  
 金子 良太郎 『墨子』の守禦システム  
 川又 則人 司馬遷の史観  
 久保 成史 『韓非子』の治強における勢の視点と統治思想  
 坂本 善隆 社会階級に対する荀子の認識  
 増田 和泉 『韓非子』の賢人登用の理論  
 松沼 伸 『春秋公羊伝』における臣下の行動を記録する際の原則  
 松村 秀士 『韓非子』の人間認識と道德性否定の論理  
 水科 徳子 孟子の王の理念  
 森田 晃子 春秋時代の戦術について  
 柳 美里 春秋後期の戦略の展開

#### 野村邦近教授

大島 大輔 中国語法学確立期の中国語法研究における品詞の分類法の研究  
 川口 恵理 魯迅と紹興  
 越田 智恵子 李広田研究  
 渋谷 純子 『野草』研究  
 竹内 和宏 『故事新編』研究

長岡 静穂 「故事新編」の「鑄劍」における魯迅の復讐観について

長谷川 真名 田漢研究

宮本 由紀子 丁玲研究

山川 弘子 謝冰心研究

リム マリア 郭沫若『女神』研究

#### 松川健二教授

飯島 香織 劉基研究 — 郁離子を中心にして —

加藤 勇気 伊藤仁斎と荻生徂徠 — その論語解釈を中心として —

小寺 賢 近世中国における天命観の変遷

小松 典洋 孟子書性関連諸章について — 理学的解釈と心学的解釈 —

佐藤 史 孟子の教育思想 — 顔元を通しての考察 —

渋谷 忠昭 論語・孟子に於ける心概念について

島津 昌宏 孔子と顔淵 — 顔淵の問うた仁とは何か —

清水 英隆 三島中洲の思想 — 義利合一論をめぐって —

高村 亨 吉田松陰の死生観

内藤 良恵 顧憲成論

星野 晃由 李二曲の生涯とその思想

松田 大雄 方孝孺の殉死をめぐって — 儒家的生死観の一端 —

田中 勝 万物一体論の展開

#### 横須賀司久教授

秋山 邦洋 月の光

荒井 洋司 李白の自然観

安西 純子 李白の酒の詩にみるその生涯

牧野 智英 李白研究

#### 呉 英元教授

内山 淳子 「日韓民話比較研究」 — 鬼とトケビについて —

榎澤 政和 日本と韓国の神話の比較

大木 広美 安重根研究 — 安重根と伊藤博文の思想の比較 —

津野田 貴子 詩人尹東柱研究

照屋 多賀子 占領と文学 — 戦争責任と生き方、沖縄と朝鮮を中心 —

林 未知 松本亀次郎研究 — 中国人日本留学生に対する日本語教育の歴史

#### 張 明輝教授

石澤 愛子 「七夕」における日中の相違

鎌本 麻里 日・中神話比較 — 伏羲・女媧伝説に関して —

小林 修一 日中鬼比較

斎藤 敬志 日中両国が琉球文化に与えた影響

道祖尾 宗明 中国と日本における住居の異同について

菅原 利恵 日本と中国における端午の節句

春原 こず恵 食と健康 — 日中にみる食生活とその意味

大門 真理子 日中における茶文化の比較

千葉 泉 日本と中国の教育における比較

珍田 富子 日本と中国における食文化の比較

名取 亮介 日中比較研究 民間信仰の中に見える神々

新倉 彩 現在の教育制度について両国の比較と、その将来性

濱田 貴子 贈り物に見る日中間のとらえ方の違い

広瀬 豊志 日本と中国におけるタブーの比較

深尾 伸也 日本と中国の習慣・儀礼における酒の扱いの違いとその原因

升水 しほり 『箸』と日本文化

目崎 陽子 日本と中国におけるおみくじ

阪 真紀 年中行事にみる日本と中国の文化比較論

打越 久夫 日中外来語受容の比較から考える中国現代文化

#### 吉崎一衛教授

岩下 直樹 中島敦『山月記』論

大場 悦子 夏目漱石と陶淵明

小笠原 裕乃 中島敦「李陵」について——比較文学の視点から——

岸田 祥子 『弟子』論

蹴場 麻美 ヤマトノオロチ神話——比較文学的立場から——

小暮 真紀 中島敦の漢詩——病苦と趣味を中心に——

酒井 順子 芥川龍之介の「杜子春」の登場人物像——唐代小説

「杜子春伝」との比較も交えて

阪本 千春 中島敦論——「山月記」より——

坂本 三千代 聊斎志異に登場する狐について

笹川 勲 紫式部の内なる菅原道真——家学の系譜と『白氏文集』諷諭詩の受容を中心に——

島田 直子 馬娘婚姻譚について——比較文化的視点から——

鈴木 由希江 『雨月物語』『蛇性の姪』研究

中村 健治 芥川龍之介の「杜子春」と唐代小説「杜子春伝」との比較

成沢 公美 『南総里見八犬伝』と『水滸伝』——八つの水晶玉と百八の星——

野村 浩子 中島敦「弟子」研究

畠山 さつき 中島敦「悟浄出世」「悟浄歎異」論

宮崎 俊弘 「悟浄出世」と「悟浄歎異」に描かれた人物について

宮本 智美 芥川龍之介の漢詩——比較文学的立場から——

森島 大治 『李陵』における人物像

山川 大輔 「李陵」における人物像

大和 優雅 『名人伝』における比較文学的立場からの考察

渡邊 康人 中島敦の「名人伝」について——比較文学の立場から——

#### 渡邊了好教授

安齋 美香 福島県いわき市の年中行事——田人町石住を中心として——

- 池角 一 会 仮名文字に見える日本人の美的感覚
- 石上 久美子 現代の日本語表記における漢字について
- 植原 亜希子 日本人の表記観
- 蛭子 みな子 日本語表記の研究
- 河合 曜子 庶民のおけいこの文化―明治から昭和にかけて―
- 私市 倫昭 「私部」について
- 嶋田 好雅 神話・伝承における蛇について
- 清水 有奈 日本の文字政策
- 関野 香苗 漢字廃止論の研究 ―前島密を中心として―
- 竹本 稔 日本人の禁忌観
- 田代 晃子 外国語の漢字表記について
- 成宮 史高 義経伝説について
- 信長 千佳子 文房四宝の研究
- 三ッ國 ゆかり 日系ブラジル人の日本観
- 宮川 江理香 日本人の坐り方について
- 森橋 奈央 日本における寝具の研究
- 諸貫 桂子 中国の開闢神話について
- 八木 文子 旅文学について ―良寛追放説考―
- 湯浅 さやか 日本人の伝達行為における非言語行動について
- 吉岡 彰子 日本の文化における左右の位置について
- 渡来 るみ子 日本の漢字における呉音の研究